

所長便り

風疹について 9月号

今、首都圏で風疹患者が急増しています。昨年1年間で90人程度に対して今年は7月から9月だけで430人を越えています。風疹は俗に「3日はしか」とよばれ、風疹ウイルスが原因となる感染症です。感染すると、2、3週間の潜伏期間の後に症状が現れます。微熱、発疹、リンパ節の腫れが三大症状で、熱が出ないこともあります。発疹は顔から始まり全身に広がること多いですが、俗名どおり3日程度で消失します。リンパ節の腫れは、発疹が現れる1週間前から主に耳の後ろや首、後頭部に見られ、小さくなるのに数週間程度かかります。風疹の診断は、周囲の流行状況を手がかりに血液検査で風疹ウイルスに対する抗体をチェックしたり、血液や尿、のどから直接風疹ウイルスの遺伝子を検出することで確定しますが、直接有効な治療法はありません。自然経過でほとんどは予後良好ですが、稀に6千人に1人位に急性脳炎、3千人に1人位に血小板減少などの重篤な合併症が起ることがあります。昨今、患者の9割以上は成人で、男性は女性の3倍、男性は30～40代、女性は20代に多くみられます。重要なのは、妊娠初期20週までの女性が感染すると「先天性風疹症候群」とよばれる、心臓や眼や耳、精神などに障害をもった赤ちゃんが生まれる可能性があることです。風疹の感染予防に有効なのは、まずは予防接種です。100%ではありませんが、多くの方が予防接種を受けると大流行を防ぐことができます。予防接種については我国では、歴史的に紆余曲折がありましたが、2006年からMR（麻疹・風疹）混合ワクチンとして1歳と小学校入学前1年間の2回、無料接種が行われています。これまで予防接種の経験のない人、特に妊娠希望の

女性は妊娠前に2回の風疹含有ワクチンの接種が強く薦められます。

もし風疹の感染が疑われた場合は、「学校保健安全法」で「発疹が消失するまで出席停止」と定められているので、成人においてもそれに準じて職場やコミュニティへの出勤は控えることが求められます。

